



# ごみ減量化への挑戦

## ～有料化から 1 年～

当別町では、ごみ減量化への具体的な数値目標や取り組み内容を定めた「ごみ減量化アクションプラン」を平成 17 年 2 月に策定しています。その取り組みの一環として平成 18 年 10 月から家庭ごみ収集の有料化を実施し、1 年 2 か月が経過しました。今月号では、その効果を振り返ります。

## 有料化によってごみの減量に成功

昨年10月から当別町の家庭ごみ収集は、資源ごみなどの一部を除いて町民の皆さんに費用を一部負担していただくために有料化をしました。

ごみを有料化したことで排出量にどれだけの変化があったのでしょうか？

平成18年は有料化による駆け込みのごみ排出の影響で大幅増となっていますので、平成17年の数値と比較することにします。

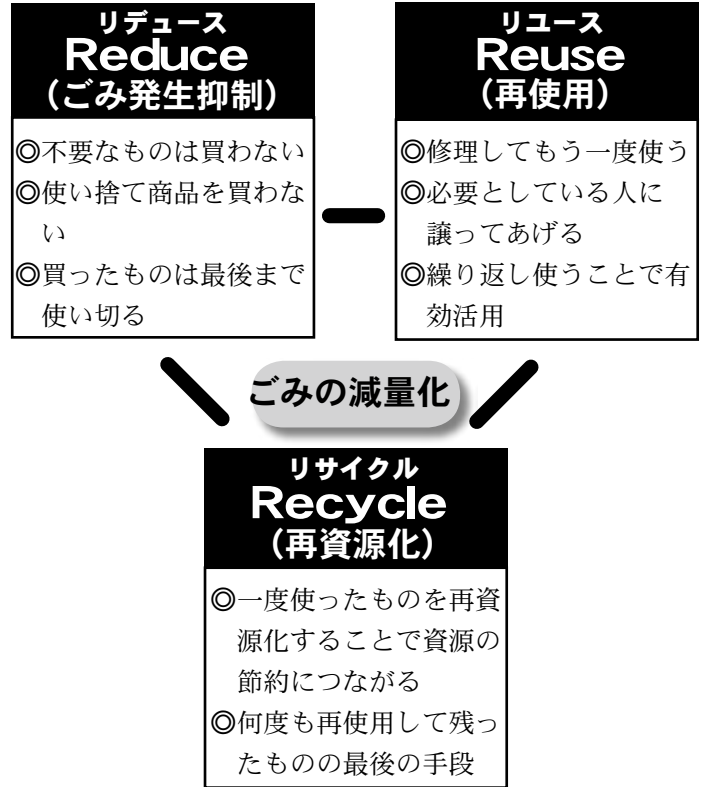
燃やせるごみは39%、燃えないごみは53%、燃やせないごみは25%、粗大ごみは83%、全体では34%の減量となった一方で、資源物は20%増となっています。

資源物が増加した原因としては、今年からティッシュやお菓子の箱を資源物として回収できるようになったことや今まで燃やせる・燃えない・燃やせないごみとして出していた繊維や紙資源、ビン、缶、ペットボトルをしっかりと分別して資源物として出すようになったことが上げられます。

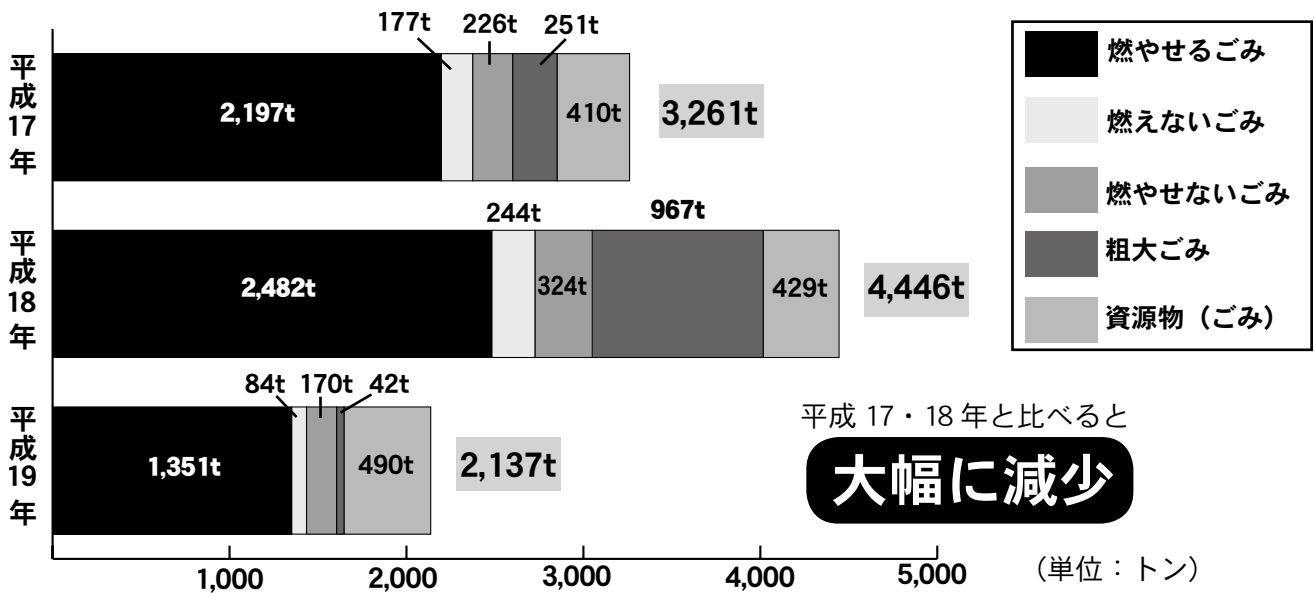
有料化を開始した年のごみ排出量が最も少なくなる傾向がありますので、今後ともごみ減量化を徹底する必要があります。

## 家庭ごみ減量への取り組み

さらにごみの減量化を進めるためには、私たちの生活を見直す必要があります。下図に上げる3R運動(リデュース・リユース・リサイクル)を進めましょう。



平成17年～19年の家庭ごみ排出量の推移  
(各年4月～9月分)



## ごみ有料化から1年

# リサイクルを考える

今回は、ごみ減量化が進んだ一方で増加した資源物について考えてみましょう。

町が回収する資源物は、平成15年10月以前は、リターナブルのビンやアルミ缶、紙類に限定されていたのですが、その後、スチール缶、ペットボトルが新たに加えられ、ビンも収集対象が増えました。

これにより、グラフ1・2からもわかるように平成16年から平成18年にかけて資源ごみの収集量が増え、それに伴って処理にかかる費用も増加しています。

資源物は、再資源化のための処理が難しく、一般の収集業者では取り扱うことが困難で、資源物専門の業者でなければ処理をすることができません。そのため、町では年間約1千万円をかけて処理を委託しています。有料化によって燃やせる・燃やせない・燃えないごみの量は減りましたが、資源物が増えることで、その処理費用の増加が予想されます。

## 集団資源回収を活用してください

集団資源回収は、町内会などで回収した資源物を資源回収業者が引き取ってリサイクルする方法です。

町内の資源ごみ全体の収集量のうち、町委託回収によるものが37%（グラフ1）であるにもかかわらず、その処理費用が全体の処理費用の83%（グラフ2）となっていることから、町では奨励金を支出して集団資源回収を支援しています。

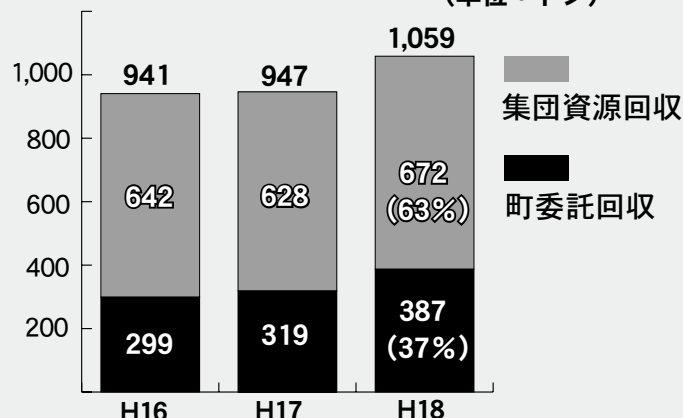
リサイクルにかかる費用を少しでも減少させるためみなさんのご協力をお願いします。

※収集品目 ・リターナブルびん（一升びん・ビールびん）・アルミ缶・新聞紙・雑誌・ダンボール・紙パックに限られます。

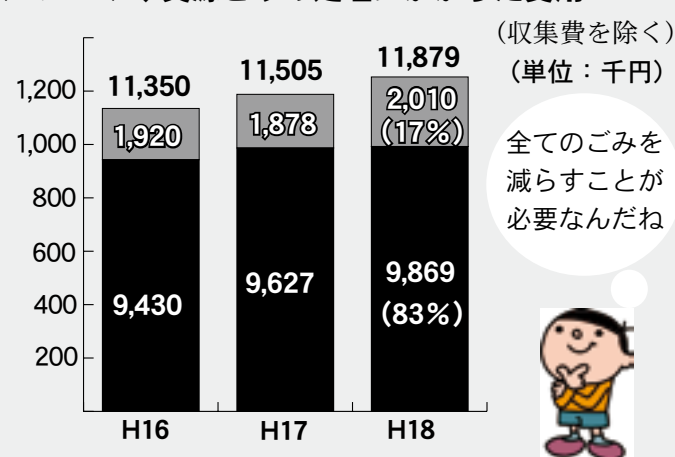
## ごみ全体を減らす努力が必要

ごみ処理費用の一部有料化を実施したことによってごみの量が相当数減少しました。これは、リサイクルの意識がみなさんの中に定着されてきた結果ではないでしょうか。

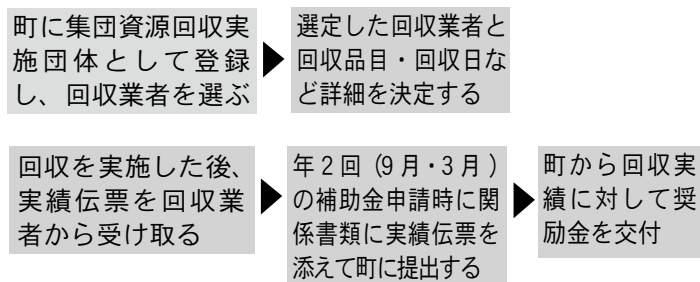
(グラフ1) ◆資源ごみの収集量 (単位：トン)



(グラフ2) ◆資源ごみの処理にかかった費用 (収集費を除く) (単位：千円)



## ◆集団資源回収の流れ



### ◎登録団体の要件

町内会・学校・PTA・育成会・老人クラブなど

◎廃品回収業者 工藤商店(対雁) ☎23-4155

松井商事(末広) ☎23-1846

北栄商事(東町) ☎22-3382

しかし、リサイクルをするにも費用やエネルギーはかかります。今後は、資源ごみも減らすことができるようにみなさんの生活を見直してはいかがでしょうか。

▼担当 環境対策課 ☎23-2503